

# 令和6年司法試験予備試験短答式試験の結果を受けて

2024年8月1日

## 1 令和6年司法試験予備試験短答式試験の結果

本日、法務省大臣官房人事課より、令和6年の司法試験予備試験短答式試験（以下、「予備試験短答式試験」といいます。）の結果が発表されました。結果は、以下のとおりです。

受 験 者：12,569人

（令和5年：13,372人、令和4年：13,004人、令和3年：11,717人、  
令和2年：10,608人、令和元年：11,780人）

採 点 対 象 者：12,469人

（令和5年：13,255人、令和4年：12,882人、令和3年：11,655人、  
令和2年：10,550人、令和元年：11,682人）

合 格 点：165点以上

（令和5年：168点以上、令和4年：159点以上、  
令和3年：162点以上、令和2年：156点以上、  
令和元年：162点以上）

合 格 者 数：2,747人

（令和5年：2,685人、令和4年：2,829人、令和3年：2,723人、  
令和2年：2,529人、令和元年：2,696人）

平均点（合格者）：181.1点

（令和5年：183.4点、令和4年：175.0点、令和3年：178.7点、  
令和2年：173.7点、令和元年：177.0点）

平均点（全体）：129.2点

（令和5年：134.5点、令和4年：127.9点、令和3年：132.0点、  
令和2年：128.8点、令和元年：133.8点）

合 格 率：約22.03%

（令和5年：約20.26%、令和4年：約21.96%、令和3年：約23.36%、  
令和2年：約23.97%、令和元年：約23.08%）

※ 合格率は、採点対象者に占める合格者数の割合で算出しています。

## 2 予備試験短答式試験の結果から読み取れること

- (1) まず、「合格点」についてですが、過去の直近5年間（令和元年～令和5年）の合格点は「156点～168点以上」という幅のある推移となっており、特に昨年（令和5年）の合格点は、令和元年以降最も高い「168点以上」となっていました。このような状況において、今年の合格点は「165点以上」となっており、令和元年からみて2番目に高

い数字となっています。

- (2) 次に、「合格率」について見ていきます。昨年（令和5年）の合格率は、予備試験が実施されるようになった平成23年から見て最も低い約20.3%でしたが、今年は約22.03%となり、約2ポイント上昇しました。このように、予備試験短答式試験の合格率は、おおよそ20%台にあるといえますが、司法試験短答式試験の今年の合格率が約78.96%（採点対象者数：合格者数＝3,746：2,958）であることと比べると、予備試験短答式試験は明らかに「落とすための試験」という意味合いが強い試験だといえます。
- (3) また、受験者数・採点対象者数は、令和2年を除き、平成27年から微増傾向にあり、昨年（令和5年）の受験者数は、予備試験史上最も多い13,372人でしたが、今年の受験者数は12,569人となり、803人（約6%）ほど減少しました。採点対象者数についても、昨年（令和5年）は13,255人と予備試験史上最も多い数字でしたが、今年は12,469人となり、増加傾向に歯止めがかかる形となりました。
- (4) 受験率については、直近2年連続で80%台を維持していましたが、今年は「79.7%」となり、わずかに80%台を割り込みました。もっとも、来年以降も同様の「受験率」が維持されるものと考えられ、合格者数も2,500～2,800人前後の合格者数となることが予想されます。
- (5) それでは、科目別（法律基本科目）を見ていきます。

ア まず、憲法科目の得点に関する全体の平均点については、以下のとおり推移しています。

令和元年：14.7点→令和2年：21.5点→令和3年：16.7点→

令和4年：19.8点→令和5年：15.2点→令和6年：13.6点

これらのデータから、今年の憲法科目の難易度は、令和元年からの直近6年間で、最も難しかったものと思われます。

イ 行政法科目の得点に関する全体の平均点については、以下のとおり推移しています。

令和元年：12.1点→令和2年：14.4点→令和3年：10.7点→

令和4年：12.8点→令和5年：10.0点→令和6年：11.2点

これらのデータから、行政法科目の平均点は、他の科目と比べるとかなり低く（半分である15.0点を超えたことがない唯一の科目）、全受験生が苦手としている科目なのではないかと推察されます。

今年の行政法科目の難易度は、令和元年からの直近6年間の中で、中間に位置する程度のもんと思われます。

ウ 民法科目の得点に関する全体の平均点については、平成29年改正民法が正面から出題されるようになった令和2年から順に、以下のとおりの推移となっています。

令和2年：12.7点→令和3年：17.3点→令和4年：15.2点→

令和5年：17.3点→令和6年：16.5点

これらのデータから、今年の民法科目の難易度は、令和2年からの直近5年間の  
中で、中間に位置する程度のものでしょうか。

エ 商法科目の得点に関する全体の平均点については、以下のとおり推移しています。

令和元年：14.2点→令和2年：12.8点→令和3年：16.0点→

令和4年：10.9点→令和5年：14.3点→令和6年：14.3点

これらのデータから、今年の商法科目の難易度は、令和元年からの直近6年間の  
中で、昨年と同じ程度に易しかったものと思われます。

オ 民事訴訟法科目の得点に関する全体の平均点については、以下のとおり推移して  
います。

令和元年：17.8点→令和2年：15.1点→令和3年：14.6点→

令和4年：15.1点→令和5年：16.6点→令和6年：15.6点

これらのデータから、今年の民事訴訟法科目の難易度は、令和元年からの直近6  
年間の中で、中間に位置する程度のものでしょうか。

カ 刑法科目の得点に関する全体の平均点については、以下のとおり推移しています。

令和元年：14.5点→令和2年：14.5点→令和3年：17.3点→

令和4年：17.1点→令和5年：18.2点→令和6年：18.2点

これらのデータから、今年の刑法科目の難易度は、令和元年からの直近6年間の  
中で、昨年と同じ程度に易しかったものと思われます。

キ 刑事訴訟法科目の得点に関する全体の平均点については、以下のとおり推移して  
います。

令和元年：15.6点→令和2年：13.5点→令和3年：14.6点→

令和4年：15.9点→令和5年：14.5点→令和6年：14.6点

これらのデータから、今年の刑事訴訟法科目の難易度は、令和元年からの直近6  
年間の中で、中間に位置する程度のものでしょうか。

### 3 予備試験の短答式試験に合格するためには

予備試験短答式試験の特徴として、合格者の平均点と採点対象者全体の平均点の乖離  
が大きいという点が挙げられます。

今年の司法試験短答式試験における合格点は93点以上であるのに対し、採点対象者全  
体の平均点は112.1点ですから、受験生全体の平均レベルの実力でも司法試験短答式試  
験を突破することは可能といえます。これに対し、今年の予備試験短答式試験における  
合格点は165点以上ですが、採点対象者全体の平均点は129.2点ですから、予備試験短  
答式試験を突破するためには、受験生全体の平均レベルの実力では不十分であり、合格  
率（令和6年：約22.03%）からすれば、受験生5人の中で一番良い成績を取れる程度  
の実力が求められているといえます。

予備試験短答式試験に合格するためには、一定の知識の量が必要なのは言うまでもあ

りませんが、重要なのは「正確」な知識の量です。正しい理解を伴った知識でなければ、予備試験短答式試験を突破できるだけの正解を積み重ねることは難しいといえます。また、科目数が司法試験短答式試験よりも5科目多いこと、論文式試験ではおよそ問われることのないいわゆる「短答プロパー」の知識も確実に合格するためには一定程度求められることを踏まえると、勉強量を単純に増やすことだけでは不十分であり、自分に合った効率的な短答式試験対策を講じるべきだといえます。

具体的には、過去問を数回解いた後、苦手な分野や過去に出題されていない分野に焦点を絞って「正確」な知識を補充することが重要です。予備校の講座や書籍を活用する等して相互の知識を関連付けたり、体系的・網羅的に学習することができれば、予備試験短答式試験を突破することができるでしょう。

以 上